妹尾旭工業株式会社

最新レーザー機導入と製造一貫工程の構築による付加価値率の向上

妹尾旭工業は自動車向けと農機具向けの金属プレス部品を生産する。切断から曲げ、塗装まで対応できる体制を社内に整えており、大量生産の部品から10個程度の少量部品まで受注、対応できるのが強みだ。製造現場の社員は複数の工程の仕事ができるよう多能工化を進め、技術力を蓄積してきた。近年は新たな分野として環境関連装置の部品加工や組み立てに取り組んでおり、ものづくり補助金で厚みのある鉄板を切断するためのレーザー加工機を導入した。

会社概況

金属の切断から曲げ、溶接、塗装まで

創業は1919年（大正８年）という老舗金属加工会社だ。1954年に自動車部品のプレス加工を開始し、高度成長期には自動車関連の仕事が次から次に舞い込むほど忙しく、主力事業となった。1967年には農機具の部品の生産も開始。現在は自動車部品、農機具部品の二本柱が基盤となっている。

同社の強みは自動車関連の大量生産の仕事と同時に10個や20個の少量の部品でも受注する対応力にある。金属を切断する、曲げる、溶接する、最後は塗装まで一貫生産体制を自社内で構築しているのが要因だ。社員数は約40人。１人がいろんな工程の仕事ができる多能工を育成しており、クレーン作業や溶接、プレスなどさまざまな資格取得も支援している。



創業は1919年と100年以上の歴史を持つ

事業内容

新たに環境関連分野の仕事を受注

自動車と農機具に加えて、近年仕事量が増えているのが環境関連分野。集塵排出装置や業務用厨房（ちゅうぼう）の油脂を回収する装置などだ。さらに、こうした装置は一部部品の加工だけでなく、組立工程まで依頼されることが多いという。従来、組立工程は行ってこなかったが、付加価値を高める仕事になると判断し、受注することにした。

環境関連の仕事を始めて、課題も生じた。環境関連装置は加工する鉄板の厚さが、プレス加工の10倍。プレス加工では２ミリメートルまで打ち抜くことが可能だが、20ミリメートルの鉄板加工が求められた。そこで20ミリメートルの鉄板を切断できる最先端の炭酸ガスレーザー加工機を導入した。


自動車や農機具部品のプレス加工が主力事業

事業成果

内製化でスケジュール調整容易に

環境関連装置の鉄板の加工は従来、外部企業へ委託していた。ただ、急いで仕事を完了したい時でも委託先の都合に合わせざるを得ず、納期の管理が思うようにできなかった。炭酸ガスレーザー加工機の導入により、社内でスケジュール調整が可能となり、顧客の要望に合わせた納期に対応可能になった。さらに出力が高い最先端の加工機のため、切断箇所のバリが少なく、加工後の処理時間も削減できたという。

レーザー加工機の導入により社内の生産体制は充実することができた。環境関連製品をはじめ、農機具や新分野の加工にも利用したいとしている。今後は環境装置に次ぐ、新しい分野の仕事も獲得していきたい考えだ。


導入した高出力のレーザー加工機

ワンポイント

事業の柱を増やし基盤強化

自動車は使用される部品の数が１台あたり、３万点といわれ、１次部品メーカー、２次部品メーカー、さらに３次、４次というピラミッド型の非常に裾野が広い産業だ。だが、各社は今、CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）に対応した新技術や新サービスに取り組んでおり、自動車だけに依存した経営は厳しくなることが予想される。事業の柱を１本なら２本、２本なら３本と増やす取り組みが今まで以上に重要になる。


代表取締役
妹尾（せのお） 貞子（ていこ）さん

会社概要

設　立	1965年	所在地	岡山県井原市笹賀町1-1-4
資本金	1000万円	TEL	0866-67-0731
従業員数	４０人	FAX	0866-67-2882
売上高	3億1000万円（2020年3月期）		